



携帯サイト用QRコード



# Iyohojin Iwakuni Byoin いいいぶ



## プランドール錦見の内覧会が開かれました

11月1日(土)にオープンするサービス付き高齢者向け住宅「プランドール錦見」では、10月24日(金)、25日(土)、26日(日)の三日にわたって内覧会が開催され、延べ約400名のお客様が来場されました。

久米相談役は「錦見を中心に地元の見学者様が非常に多い。地域に密着した施設にしたいと考えているので、嬉しいことです」。萩原管理人が受け持った内覧会のセッティングは、各種お飲物を楽しんでいただいた喫茶コーナーをはじめ、施設内にさりげなく飾られた小物やハロウィーンのかぼちゃなど、アットホームな雰囲気。お迎えするスタッフの明るい挨拶や丁寧なご案内も「感じがいい」と好評でした。

24・25日に行われた日米クックによる試食会は行列のできる人気ぶりで、「ボリュームがある」「彩りも味も満足」との感想を多くいただきました。

アンケートでは、「明るく静かで快適」「利便性が高く、すぐにも入りたい」「看護師さん、介護福祉士さんなどがいてくれて安心」との声が上がる一方で「価格設定が高いのでは」「介護の必要性が高い人には使いにくいのか」等のコメントも聞かれました。

見学者様からの、医療面での質問を受けもった庄司凡医師(岩国病院理事長)は、「建物などのハード面は変えられないが、ソフト面は使いやすさを考えてどんどん整えていきます。岩国病院が経営しているという安心感も含めて入居していただければ」と話しています。

産声を上げたばかりのプランドール錦見は、真の意味で地域に貢献できる施設となるようがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 院長が表彰されました

「20年以上産科医療に従事し、地域の産科医療の確保・推進に貢献してきた医師又は助産師」を県から1名選ぶ「産科医療功労者厚生労働大臣表彰」が、本年度、当院の庄司孝院長に贈られました。「多年にわたり、地域のお産を支え、我が国の産科医療の推進に貢献してきた産科医」と認められたことは、一丸となって岩国のお産を手伝い、見守ってきた病院スタッフ皆にとっても嬉しいこと。「一人は万人のため、万人は一人のため」をつねに念頭に置いて1万人あまりの出生を手がけてきたという院長は、「まさにこの言葉通り」と表情を和ませました。



# 災害対策を考える

## [さまざまな自然災害]

大雨、強風、竜巻、台風、寒波、猛暑、火山の噴火など、自然的な被害が年々大きくなっていると言われます。大雨による浸水や土砂災害、地震による津波や原発事故など、二次災害まで加えるとケースは本当にさまざま。岩国病院でも備蓄や連絡網はあるものの、いざというとき役立つものにするためには、各災害に対する防災シミュレーションを、日ごろから心がけておくことが重要でしょう。東北地方太平洋沖地震（平成 25 年 3 月 11 日）でも、最悪の規模の津波まで想定していたために助かった例があります。



## [岩国の水害対策]

岩国の場合は、海と川が近く、標高も低いいため、大雨や台風時には災害の度合いが大きいことが予想されます。実際に、本年 8 月 6 日の大雨の際には、甚大な被害が出ました。

「災害は忘れた頃にやって来る」。日頃からできることはしておきましょう。

- ◎岩国市が出しているハザードマップを見て、災害を予測しておく。
- ◎川や池、傾斜地などの普段と違う様子から異変が察知できるよう、身の回りを観察しておく。
- ◎災害情報・気象情報につねに注意する。
- ◎冠水、山からの鉄砲水、川があふれる等の場合にすべきことを想定、また、過去の水害時の被害状況や対策を知っておくなど、日頃から防災意識を高める。

準備しておいて災害がなければ、それに越したことはありません。

ただし、被災の大難を小難にするためには、物心両面での準備をしたうえで、いざという時、いかに情報を早く把握し、的確に判断するかにかかっています。

(参考：岩国市ホームページ「錦川氾濫シミュレーション」「岩国市錦川水系洪水避難地図」、国土交通省「水害サミットからの発信」)

## エンゼルケア学習会

実技をまじえて講義をする祖田医師



去る 9 月 25 日、そだクリニック院長の祖田由紀子医師を招いてエンゼルケア学習会が開かれました。

エンゼルケアとは、亡くなった患者さまに死化粧をほどこし処置を行うもので、故人の生前のおもかげを生かし、またご家族にもお化粧に参加していただくことで、故人をしのび、心のつらさを癒す作業でもあるとのこと。

普段するのとは違う順番でメイクをしたり、病気や状態によってご遺体が死後、激変した際の対処法もお聞きしました。死の直前に多くの点滴を打つと、体液が漏れるなど不都合も起きるので、過剰な処置はしないほうが良いなどの注意点も挙げられ、看護師、医師にとっても、実技・精神的ケアの両面で、学ぶことの多い場となりました。

## ミナトとタビ



タビ「アタシはお水あそびが大好き。錦帯橋までお散歩するの」

ミナト「ほく、ドッグスクールに留学中！お父さん、お母さんがんばってるね」

青い首輪がミナト、赤い首輪がタビ  
院長宅の双子ちゃん。

